

日鉄スーパーEデッキ - 開口補強標準仕様書 -

コンクリート硬化後、合成スラブにコアトリル等を用いて孔あけする場合

開口部は、位置および数や建物の用途、荷重、スパン、コンクリート厚さおよび施工方法(支保工の有無、箱抜き工法等)等個々の条件に合わせて適切な納まり補強が必要です。

開口部の大きさ別に納まり、補強方法のいくつかを例示しますので参考にして下さい。

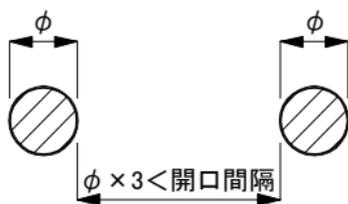
なお、本補強方法は、一般の事務所・店舗等に使用される合成スラブを対象とし、フォークリフト等の走行により繰返し荷重が作用する床や倉庫・工場等のような大荷重が作用する床は対象外とします。

開口部について次のような点にも注意して下さい。

- ・開口部周辺からの「火炎」が上階に通らないように開口部周囲には隙間が生じない納まりにして下さい。
- ・床スラブ貫通孔には所定の耐火被覆を施工して下さい。

鉄筋の間隔等記載のない事項については「JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)によって下さい

- 径が 150mm 程度の小開口に限って、その開口間の内法寸法が開口径の 3 倍を超えている場合は、コンクリート硬化後にコアドリル等を使って孔あけすることができる。



- 合成スラブの谷部を連続して 3 谷以上孔あけすることは不可とします。

